

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202172		
法人名	医療法人 平成会		
事業所名	グループホームひまわりの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄701-10		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 7 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;igiyosyoCd=3370202172-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;igiyosyoCd=3370202172-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 29 年 8 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年度は</p> <p>①入居者一人一人が今出来ている事を継続でき、その中で達成感や充実感を感じて頂けるよう、個々の状態・ケアの内容の把握共有に努める</p> <p>②一人一人にしっかりと寄り添い、個々の思いをくみ取れるよう、チームとして支援していくの2点を事業所の目標に掲げて取り組んでいる。</p> <p>職員達は、自分達がどんなに努力しても、入居者の家族に代わる事は出来ないという介護サービスの限界を認識したうえで「あなたがいて良かった。」と言われるようなグループホームを目指している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>建物内部は整理整頓が行き届いており、ニオイも無く、清潔感がある。そんな環境の中、買い物やお風呂、トイレ等、利用者優先(ペース)で支援に取り組むことで、利用者は落ち着いた生活が送れている。地域との交流が多く、近隣の保育園や小学校の行事に参加したり、法人内で行う敬老会やクリスマス会に幼稚園児が歌や演奏を披露してくれたり、法人全体で行う夏祭りが地域のお祭りとして確立するなど、様々な世代との交流や馴染みの関係継続の支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2ヶ月に1度のミーティングと、年に1回事業所内で理念についての勉強会を開催し、理念の意味や必要性について職員一人一人が考える時間を設け、話し合う事で、統一したケアが行えるよう取り組んでいる。	法人内の勉強研修委員会によるテスト(年1回)や、独自に作成した理念の必要性についての資料を基に内部研修を行い、職員間で共有・実践している。また、目につきやすい台所の棚の上に理念を掲示し、職員へ周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回、近所のスーパーへ買い物に出かけている。また、多世代での地域交流を目的として地域の保育園・幼稚園との交流行事や中学生の職場体験事業、実習生の受入れ等を毎年実施している。このほかにも小地域ケア会議への参加や昨年度より中学校区の人権推進委員会が主催する花の寄せ植え活動にも定期的に参加している。	法人内行事に保育園や幼稚園児が来て歌や演奏を披露したり、保育園や小学校の行事に参加したり、運営推進会議に保育園園長が参加したり、高校生のボランティアが夏に来たりするなど、様々な場面で事業所の特色を活かしながら地域と密に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いている構成員の方や家族の方に、入居者を含めた認知症の実態を知って頂いたり、協力を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事の予定や報告を伝える中で、構成員の方の意見や、他の事業所の情報を取り入れ、サービスの向上に活かしている。近隣のグループホームや今年度より法人グループの小規模多機能ホームの職員にも構成員として参加してもらい情報交換を行っている、こちらからも他事業所の運営推進会議に参加するなど事業所間の交流も行っている。	中学校校長、保育園園長、郵便局長、老人会会長、愛育委員、民生委員、地域包括、家族、他事業所の方など、大勢の方が参加して、2ヶ月に1回開催している。避難訓練と合わせて行うこともある。愛育委員から浴衣を提供してもらい、法人主催の夏祭りに参加したり、ボランティアを紹介してもらったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括支援センターの職員が参加し、地域の現状や他事業所の取り組み等を紹介して下さると共に、当事業所の取り組みに対しての意見やアドバイスをいただき、交流を深めている。倉敷市の介護保険課にも年に数回呼びかけを行い、会議へ参加して頂いている	今回初めて参加した地域包括主催の小地域ケア会議においてグループホームの概要を説明したり、市の職員が外部講師として訪問したりするなど、情報共有・提供しながら密に連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修は、年に1回以上行い、日々のケアでも、身体拘束になるような言動はないか等、ミーティングで話し合った上で、個人でも文章での反省を記している。	毎月、担当者が法人内の身体拘束委員会に参加したり、ホーム長が軸となり、内部で勉強会を行っている。勉強会の後、職員はレポートを提出している。また、県主催の外部研修に参加したり、市の福祉援護課の人に外部講師をお願いしたりするなど、身体拘束・虐待ゼロに全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で権利擁護に関する内部研修を毎年行い、その中で高齢者虐待について学び自分達の言動が虐待につながる危険性がないか話し合っている。また、法人内で外部講師を招き、高齢者虐待と権利擁護についての研修を実施し、事業所の職員も参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で権利擁護に関する内部研修を年に1回開催し、事業所の職員も参加している。運営推進会議で地域の方にも理解してもらう為、情報提供を行ったり、勉強会を行ったりしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所の取り組みや、考え方・行事等を説明し、理解を得ている。重度化や看取りについての対応方針は、契約はもちろん、家族交流会や面会時等で理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関口に意見箱を設置し定期的に確認を行っている。家族には、日頃よりコミュニケーションをしっかりと取ることで、信頼関係を築けるよう努力している。家族や本人に対して、年1回満足度アンケートを実施、集計した意見や要望についてはミーティングで話し合い、事業所医運営に反映させている。	家族へ行った満足度アンケートの結果を家族交流会で発表するなど、運営に反映している。また、「本を買いに行きたい」「外に出たい」など、日常会話から出た利用者の意見や要望は日々実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見は、できるだけ早く解決しているが、すぐには解決できない問題は、ミーティングの課題として意見交換し、迅速な解決に努めている。	年度末の人事面談や職員から管理者に向けた意見ノートを利用して、職員の意見や提案を運営に反映している。業務の事に関しては、直接口頭で言われることが多く、何でも言いやすい環境作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での介護福祉士取得率は70%を超えており、現在、介護福祉士を取得していない職員に対しても働きながら介護福祉士が取得出来る様に初任者研修、実務者研修受講の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを目的として毎月事業所内で勉強会を行っている。内容は、接遇マナーや認知症ケア、介護技術面等、多方面にわたる、多くの職員が参加できるように計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、ケアマネ交流会、近隣のグループホームの運営推進会議に参加したり、他事業所の見学に行ったりと事業所間での交流もしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では、本人と心地よい距離を保ちながら、入居前提の堅苦しい話ではなく、まずは本人の気持ちを和らげ、職員が受け入れられるような環境・関係を築いていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を重視しながらも、事業所としての思いも伝え、双方が歩み寄りながら、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状態や思いを自事業所だけで抱え込むのではなく、法人内の各事業所と情報を共有し連携を取る事でその時のご本人に適したサービス提供が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の悩みや思いに関わる中で耳を傾け傾聴することで、共に生きている喜びを感じてもらえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを大切にしながら、面会時、日頃の生活状態を伝えたり、情報交換をすることで、共に本人を支えていることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月の初詣には、地域の神社に参ったり、馴染みの地域をドライブしたりと、自分の育った地域ともつながりをずっと持ってもらえるよう努力している。	家族や近所の友人、親戚などが訪ねて来たら居室に通してお茶を出したり、写真を撮ったりしている。撮った写真はアルバムにして保管している。また、年賀状が届くと返信するなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を職員全員が共有し、細かい感情の変化も逃がさず、いい距離を保ちながら、注意深く見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の介護老人保健施設に入所された場合は、他の入居者と訪問したり、入所先のスタッフの様子を尋ねるなどして、関係が継続出来る様、法人内でコミュニケーションを取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の真意が理解できるよう取り組んでいる。関わる中で何か変わったことがあればスタッフ間で共有し統一したケアが提供できる様、取り組んでいる	ご飯を食べてる時など、日々の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、入居前に家族から生活歴を聞いたり、居宅時代のケアマネージャーから情報収集したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの生活を尊重し、理解した上で得た情報をケアに生かせるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の様子や、身体的状態を把握し、他の職員とも共有するため、申し送りノート等に記録を残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリング、6か月ごと又は、状態が変わった時に、ケアプランを作成するが、事前に家族や本人の思いをアンケートに記入してもらう。また、他職員の意見を聞き反映させ、本人にとってよりよい介護計画をつくるよう努力している。	各利用者の担当職員と計画作成担当でカンファレンスを行い、利用者の現状に沿ったプランを作成している。また、作成したプランは全職員へ回覧され、周知している。ケアプラン作成時、家族にアンケートを行い、意見や要望を反映している。モニタリングは6ヶ月後、又は、何か変化があればその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日記入を行い、申し送りノートを活用する事により、その日の出来事や入居者の状態を情報として共有できるよう取り組んでいる。このノートは業務開始前にチェックするようスタッフ間で統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちの変化や、家族の要望に対し、臨機応変に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に構成員や、地域包括支援センターの職員が参加することで、地域のいろいろな情報交換をすることができ、お互い良い関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、法人内の併設のクリニックへの受診支援を行っている。その他の本人、家族が希望する病院への受診も可能だが、送迎については基本的に家族にお願いしている。主治医との間に連絡ノートをつくり、受診時の情報交換に努めている。家族にもノートを開示し、信頼を得ている。	家族了承の下、協力医(=かかりつけ医)となっている。家族と併設した協力医との間に情報伝達のノートがあり、グループホームで管理している。週2回、法人の訪問看護ステーションから訪問があり、急な変化や相談にも対応してくれる。また、朝礼時に連絡ノートを渡し、情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師には、週2回の健康チェックだけでなく、小さな傷やちょっとした状態の変化等、あらゆる問題への相談や指示をもらい、早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、主治医や看護師との関係を密にしているため入院となった時、普段の様子を把握している主治医から病院に情報を提供している。グループホームの職員は、見舞い等で家族と情報交換し、退院に向け励ます等の支援を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所としての対応を入居時に説明し同意を得ている。本人の状態についてご家族と日頃から話す機会を持つようにしている。また、医師・看護師との連携を取りながら、安心・安全に生活してもらえるよう努力している。	事業所内では基本的に看取りはしない方針であり、一般浴に入れるかどうか一つの基準である。入居時、家族や利用者に看取りの方針を説明し、同意を得ている。年1回、法人で開催されるターミナルケアの勉強会に参加し、知識を習得している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、勉強会を行うと共に、法人内でも看護師による内部研修で学び体験する機会をつくっている。また、対応マニュアルを作成しいつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	介護老人保健施設サンライフ倉敷と合同で年2回、中国電気保安協会職員の指導のもと、日中・夜間想定での避難訓練を行っている。実際の火災と同じようにベルを鳴らして通報し、避難誘導、安否確認をする。新人職員は必ず消火訓練に参加し放水訓練を実施している。地震災害についても運営推進会議の中で構成員に参加して頂き訓練を実施後、対応について意見交換を行っている。	年2回(3月及び9月)、日中に夜間想定で避難訓練を行っている。また、法人全体での合同訓練にも参加している。消防署と連携して、赤電話を使用した通報訓練を行っている。運営推進会議の出席者や地域住民が避難訓練に参加している。	消防署立会いによる訓練を実施し、避難方法の確認や災害対策の周知などに繋がる事に期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活空間にお邪魔させて頂くという事をしっかりと認識し、居室訪問時には必ずノックしたり、声かけをして入室している。接する時は、常に人格を尊重し、本人の気持ちを傷つけないよう心掛けているが、またスタッフ同士注意し合い、気付けることで、お互い反省につなげている。	各居室への入室時のノックや声かけ、さん付けの徹底を図っている。また、申し送りや利用者の話をする際、必ず声のトーンや話し方を考えながら離れた場所で行うなど、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	トイレ内の個人名が記載された箱に関して、さらなるプライバシーの配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めてくれるのではなく、その場その場でいくつかの選択肢をつくり、できるだけ自分で決められるように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や気分を考慮しながら本人のペースで一日過ごしていけるよう、意見を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を準備する段階で、着たい服を決めて頂き、自分らしさが表現できるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを把握し、調理の仕方や調味料、切り方を変える等の変化を持たせ、同じ献立でもその人に合った工夫をし、喜んで頂けるよう努力している。又、治療食やソフト食などの対応も可能となっている。年に数回、外食を企画し外で食事を楽しむ機会を提供している。	食事にに関する利用者の意見や要望を給食委員会に伝え、個々に味付けを変えたり、食べやすく刻んだりして工夫している。また、糖尿病の利用者が美味しく食べてもらえる様なメニューも作成している。下膳やテーブル拭きなど、出来る利用者にはお願いしている。月1回の行事食には、利用者の好む寿司や天ぷら、茶わん蒸し等が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分の摂取量を記録、又は把握し、体調管理の目安にしている。水分補給を好まない人には、なるべく本人が好んで飲める物を出したり、脱水予防の為、入浴後には全員スポーツドリンクを飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分では声掛け・見守りを行い、そうでない方には介助にて口腔内の清潔保持に努めている。また、昼食前には入居者とスタッフで嚥下体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、細めにトイレ誘導を行うことでスムーズな排泄が行えるよう支援している。	排泄のことを「さわやか」と呼んでおり、さわやかチェック表を基に、日中は個人のペースに合わせてトイレに誘導している。夜間のみポータブルトイレを使用している。拒否がある方に対しては無理強いせず、個々に合わせて見守り支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の1日の水分量・摂取量を把握し、下剤の調節や腹部マッサージ等、個々の排便リズムに合わせて実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては入居者の身体への負担を考慮し、一日置きの入浴を実施している。本人の思いを尊重し無理に行うことはせず、個々の希望に応じる事が出来る様、順番等を調整している	以前は毎日入浴支援を行っていたが、去年から2日に1回のペースで入浴支援を行っている。利用者に合わせて、熱い湯が好きな人は前半、ぬるめが好きな人は後半に入浴支援している。入浴を拒否する利用者には、時間やタイミング、職員を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠サイクルを把握し、体力面を考慮しながら個々に臥床する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容はファイルに整理し、いつでも閲覧できるようにしている。服薬時、与薬時の注意点をまとめたチェック表を活用し一人ずつ確認しながら介助することで誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好きな事や興味の持てるものを楽しんでもらい、気分転換になるよう支援すると共に洗濯物の干す・たたむといった事や食前のテーブル拭き等、生活の中でその方ができる事を役割として行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝、何グループかに分けて、施設の遊歩道を散歩している。また、定期的にドライブを計画し、外出することで季節を感じてもらえるよう努めている。	気候の良い時期に遊歩道を散歩したり、定期的に買い物に出かけたりしている。家族と一緒に外食や墓参り、投票に出かける方もいる。自宅に戻った際、畑で採れたスイカを持ち帰り、職員や他の利用者に振舞ってくれる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々によってお金の所持は異なるが、所持している方については、特に預かる事はせず、ご本人を尊重し本人の金銭管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内に手紙を出す人、電話をかけたいと希望する人には、個々の気持ちを大切に、実現に向け支援してる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本棚を利用者が利用しやすい所に置いたり、テレビは興味のある人、ない人を考慮し置き場所を工夫している。食堂付近のコルクボードに1ヶ月の行事予定を記入し、入居者に見えやすい様掲示している。	和室や利用者が集うフロアには最小限必要な物しか置いておらず、広々とした空間の中、利用者は穏やかに個々のペースで生活している。また、季節を感じる写真や利用者が作成した習字の作品等が飾られ、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き、個人が利用しやすい雰囲気になるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前面接でお願いしているので、普段使い慣れている家具や好きな物、写真等を身近に置く事で落ち着けるよう配慮している。	馴染みの辞書を持参して趣味のクロスワードパズルを楽しんだり、TVや使い慣れたテーブル、イスなどを持ち込んだりしながら、動線も確保しつつ、個々に居心地いい環境を整えている。居室入口に利用者の名前と顔写真を掲げ、分かりやすく、間違いのない様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、個人の写真やプロフィールを書いて貼ることで、自分の部屋であることがわかるよう配慮している。		